

月報

<461号>

ケルンボン日本語
キリスト教会

二〇二四年八月三十一日

「神のときを信じる幸い」

ヨーロッパキリスト者の集い「開会礼拝」説教よりの抜粋

佐々木良子

九月を目前にして、時折、燦々と太陽が照り付けますが、季節は一步ずつ秋へ移行しているように感じます。そうして、今年度も瞬く間に過ぎ去っていくのだろうと思つこの頃です。

私事ですが、二〇一六年四月に赴任して九年間の任務を終え、二〇二五年三月には日本へ本帰国いたします。当初は三年の予定でしたが、二度の任期延長を経て現在に至っています。

七月末に「時がある」(コヘルトの言葉三章一節)というテーマの元に「ヨーロッパキリスト者の集い」が開催されました。「何事にも時があり天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」との御言葉は実に「アーメン」で、ドイツで定められた時を深く思うものです。

さて、口語訳によると、「神はすべての事と、すべてのわざに、時を定められた」となっています。時を定めるのは私ではなく、主語が「神」であるということが明確に分かります。

人は誕生して成長し、悲喜交々な時を過して最後は死に至ります。全てのの人に訪れる人生です。その人生の出来事の背後には、神が定められた時があって、その中で私たちは存在している、とコヘルトは語っています。

全て「神が定めた」ということは、ある意味では、慰めに満ちた言葉であるといえます。

人生を振り返ってみますと、不条理や理不尽、試練等、多種多様な思わしくない出来事に遭遇したことがあると思います。しかし、それらの全ての営み、全ての時は、神が定めておられるというのですから、どのような時であっても、もはや嘆く必要はないのです。全ての出来事は、神の御手の内にあることですから。

そのことを如実に表わしているのが、創世記三七章から五〇章まで、所謂「ヨセフ物語」と言われている箇所です。ヨセフの上に次々と襲い掛かってくる波乱万丈の人生が、長きに亘って綴られています。しかし、ヨセフは決してこの世の報われないような事柄に押し潰されることはありませんでした。

父・ヤコブがヨセフのことを溺愛していたことにより、ヨセフの兄弟たちは彼に妬みと憎しみを持つようになりました。父の元にいた時には、兄弟たちから散々いじめられ、その拳句、ヨセフは彼らによって殺されそうになりました。しかし、命は助かりましたが、エジプトに売られてしまったのです。そしてエジプトにて、誠実を尽くせば尽くすほど、人の悪意を招く人生を辿ることになってしまいました。

一見するとヨセフの生涯は、人の悪巧みや妬み、憎しみに象徴されているように思われます。しかし、私たちがここで注目すること、読み取るべきことは、ヨセフの上に襲い掛かった苦難ではなく、その背後で、神が全てを回り、着々と神のご計画が成就していった、ということなのです。

そして、ヨセフは次のように告白しています。「わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。神がわたしをファラオの顧問、宮廷全体の主、エジプト全国を治める者としてくださったのです。」(創世記四五章八節)

ヨセフの生涯は様々な妨害にも拘わらず神の時は進んでいったのです。ヨセフは苦難の日々、自分を限りなく支え、導いてきたのは、「実に、神なのです」と、確信に至りました。

ヨセフの人生、また、私たちの人生を支配しているのは何でしょうか。運命でも、人の悪だくみや、憎しみでもありません。全ての営み、全ての時を、神が定めておられるのです。

口語訳聖書では、「神のなされることは皆その時になつて美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた」と訳されています。納得いかない事が多々あると思います。到底、「美しい時」とは思えないかもしれません。

しかし、荒れ地も岩場も、全て神の御手の内にあります。そして私たち自身でその土地を受け取るのです。神から見れば、私たちに与って受け入れ難いことの全ては、その時に適って美しく創られている、ということを感じる者となりたいたいです。神の視点と私たちの視点の違いを心に留めることが大切です。

「美しい時」となるのも、「最悪の時」となるのも、人や環境のためではありません。自分自身の問題です。果たして、今、自分はこのような時を歩んでいるのでしょうか。

この地にめぐって用いられる

Strassenfest (教会前路上バザー)を通して

佐藤グループ道子

六月三〇日、この地域の例年の「Ökumenisches Gedenkfest」(全キリスト教徒のお祭り)、我々の言う Strassenfest (教会前通りのバザー)は、気遣われた天候も雨のち晴れて、一時一五分からのディートリヒ・ボンヘッファー教会(我々が使わせていただいている教会)での、キリスト教徒合同礼拝でその日は始まった。主題は「Ökumene hat Zukunft」(キリスト教徒と教会には将来があると言っ様な意味)を掲げて、会堂にはカトリック、プロテスタント、日本語教会の四人の牧師と信者で満たされた。

色々な曲で讃美をし、聖書箇所ルカによる福音書五章一〜一節が朗読され、先ずボンホーファー教会のゲブハート牧師は、「神様は人を必要とされている」と始められた。我々もペテロの様に「シモン」と言う名で歩んだ古い道から、イエスに与えられた名「ペトロ」として自分を明け渡して、新しくイエスに従う道を辿る人となり、そして賜物が授けられて人を漁る者としてくださる。この道を歩む我々には往々落胆と躓きがつきもの。「でも、お言葉ですので、もう一度」と綱を下ろす弟子の様に、半信半疑のうちにあっても立ち直る力が与えられ、勇氣と希望とで満たしてくださると説教された。

引き続きカトリックのヒュンテン神父は、「心を開いて神様の入られる空間を作り、勇氣を与えられて新しい道を歩みましょう。大きな奇跡が待っているのですよ」と励まされた。「神様は、神様を人に伝える人を必要とされているのです。さあ、これからあなた達もここを出て、道で新しい人と交わりなさい。」と最後に言われて説教を閉じられた。その後佐々木牧師を交えての三人の牧師の祝福を持って礼拝を終えた。

そして路上両側には屋台が立ち並び、古本、手工芸品等大半は風食のためのお料理店。ここではビールとソーセイジやコーヒーとお手作りのケーキは欠かすことができない。そして所々にはビヤホールに使われる細長いテ-

ブルとベンチが用意されて、人々は団欒に大童。子供たち、乳母車を押しながらの若い家族連れから、教会のお隣は高齢者のハイムなので車椅子や押し車での高齢者も多く、路上は全ての年代の方々に活気があった。

我々の屋台は特等の場所教会の入り口の横。そして今ではお馴染みの焼きそばと海苔巻きと鮭の押し寿司。寿司類はいつも三人の姉妹が作ってきて下さっている。焼きそばの屋台での料理係として金さんご夫婦が大活躍。準備には前日手分けをして五千口のスパゲッティを茹で、具となる野菜を切るのに皆が協力。何と言っても日本からの焼きそばの素が天下一品のお味。「これを楽しみに来たのですよ。」とドイツ人老人夫婦はなんとそれぞれ二人前平げてしまわれた微笑ましい光景や日本人独特のエプロン姿での売り子さん達の接待。



忘れてはいけけないのは例年日本人のボランティアの方々の貴重な助け。この様な助けと応援があつての我々の行事で、心から感謝している。当店は人気で二時間程度で売り切れ。この売り上げは全て献金された。

お役目のない私は路上の方々とお話をして親交を深めた。東欧から移民されたプロテスタントの信者の婦人とは、同じキリスト教であるカトリック教徒とに生じた不和の苦勞話に耳を傾け、「Ökumene」即ち宗派の異なるキリスト者との横の繋がりは、まだまだ耕されていかなくはならない事に気づかされた。

日本人キリスト者にあつたことのないお年寄りの方は、日本でのキリスト者としての経験を話し、そしてこの地にある我々にとって日本語での礼拝は意味がある事などを説明。もう一人いつも顔を見るがお話したこと

のないドイツ人の古い教会員の方とは大変長話ができた。私の知らない昔の多くの教会員を持っていた日本語教会の思い出話をして下さった。

更に今後の我々の教会の事で意見を交換できたことはとても意味があつた。と言うのも来年には日本語教会の佐々木牧師の日本御帰国、そしてボンホーファー教会のゲブハート牧師の定年退職があり、両教会は大きな転機を前にしている。この様な会話を通してこの地域のキリスト教会の一つとして、またこの地に遣わされている日本語教会としての意味をもう一度新たに認識させられた貴重な経験となつた。

この地にあつて、我々一人ひとり、小さな力であっても神様が用いられれば必要とされている人となつて育っていく事を信じ、備えられた道を歩む勇氣と希望を与えられている幸いに感謝することが出来る。そして神様に栄光を帰すことができますように。大切な経験をさせられたお祭りの一日でした。

ひゅうまねっと「私のボランティア活動

藤井弘子

今週も祝福に押し出されて「この世」へと出ていきます。雑用に追い回されてしまう日々、ラジオを終日つけ、毎日ドイツの新聞を読んでいても、外に出ていくことが私にとって貴重な社会との繋がります。

ドイツ公益社団法人「ひゅうまねっと」(ヒューマンネットワークの略)に加わって約三〇年ですが、三八年の歴史を持つこのグループの月一度のミーティングに見学参加したとき、茶菓代五〇ペニヒ(五〇円)の缶が回ってきました。飲食代を売上げから支出しない、という主旨に、私は即入会を決めました。私の担当は、「ひゅうまねっと」が「経営」する店(三m x 五m)の小さい「ひゅうまねっと」ショップの売り子当番の他に、寄付申込み者のお宅に向き、不用品を頂いて来ることでした。お陰でデュッセルドルフ中を走り回り地理にも詳しくなりました。

その間に時代も変わり、SNSを使ったり、ガレーシセ

ールをして皆さんが自分で販売するようになったこと、お店の常連さんもディスプレイカウントショップで新品を求めようになり、苦渋の決断で、「コロナによるロックダウン直前の二〇二〇年に閉店しました。」

このお店を通してモロッコ、トルコ、ウクライナ等様々な国々の人々とタダ同然の商品の値段を巡って時に丁々発止の交渉(片言で)をしたのが楽しい思い出です。家族のためにもお店で買いましたが、特に日本製の可愛い洋服は幼なかつた孫たちに喜ばれ、バーバは大いに期待されていました。家族中の不用品はお店の商品となりました。

「ひゅうまねっと」ショップを閉店しても私たちの支援を待っている方々がいいます。お金儲けを色々と考え、ネット販売等やってみました。うまく行きませんでした。創設者にしてリーダーのフックス真理子さん(「ひゅうまねっと」の基地である公文教室の責任者)の、森の中にあるご自宅での「森のコンサート」、「夏の夜の蜚狩り」、その道のエキスパートによる「講演会(カルチャーカフェ)」等での寄付金、突破口は次々と与えられました。

メーアプッシュ市での「桜祭り」への出店、デュッセルドルフ市「日本デー」での出店。今年も六〇万人以上の人々が思い思いのコースプシで参加し、市内を練り歩き、暗くなってからはライン河畔で日本の花火を満喫した日に「ひゅうまねっと」はとんがり屋根のテントで小物やコースプシ用品、漫画、和食器、お内裏さまの欠けた雛人形(三人官女、五人囃子)は単品で売りました。因みに三年連続で、テナットの借り賃を差引いた純益がかなりの額になり、今年も当地に避難中のウクライナの子供達への支援と、アストリッド当田夫人のアフリカ・ベニン共和国での村の学校作りにも送金できました。昨年に続いて二度目の参加となる Dokomi ドコミは日本



デーと同様三〇年以上の歴史があるそうです。(年々盛んになっている由、全く知りませんでした。)

Dokomi ドコミは、昨年一六万人の参加があり、今年も会場であるデュッセルドルフ国際見本市のスペースを更に広げ、アニメ、漫画、コースプシ、ゲーム、ファッション、音楽、更に加えて現代日本の若者文化紹介の見本市です。「ひゅうまねっと」も世界的に珍しい、日本人主体のチヤリテイ団体ということ(?)で昨年に続いて招待され、広い一角を頂き、寄付品のマンガ、フィギュア、文具や小物、着物類を出しました。

あまり商いにはなりませんでしたが、日本語を日本人と話してみたい各国の方々が順番待ちで遠慮がちに日本語で語りかけてこられ、暫く話したのち、「話相手をして下さって有難う。」と日本語で言われたのには感激しました。漫画、アニメ、スマホで日本語を独学で習得した人が多いのは驚きました。三日間で一六万人!こんなに沢山の老若男女が日本文化に興味を持って下さっている。



漫画やアニメの世界も全く新しくなっていますから、サザエさんや鉄腕アトム時代の者には Dokomi ドコミのお客の質問には応えられませんが…。最近ではボランティアも人手不足なので、孫の手も離れた八〇代の仲間が四人もいて、チームを支えて(私は支えられています)。

時にはハードなこともあります。健康が与えられ、今暫く続けさせて頂きますように。引き続き「ひゅうまねっと」に神様の祝福がありますように祈ります。讚美歌二一、九〇番 四節 「今われら、出で行く時。われらみな、主のものなり、とこしえまで主に仕えん。アーメン」(その後祝福)さあ、この世へと出て行きなれど。

一六歳からの選挙

藤井千恵

二〇二二年にドイツで初めて導入された Wahl-O-Mat (「Wahl」選挙)と「Automat」自動販売機)の Mat だけ取ってくつ付けたもの)は、オランダで開発された、選挙に関わる政党の主旨をまとめたプログラムで、どの政党がどういう目的を持っているかを教えてくれる (bpb Bundeszentrale für politische Bildung = 連邦市民教育機関がインターネットで提供)。

それと、自分の政治に対する期待とを比較し、一番近いプログラムを持つ政党の選択をサポートしてくれるアプリだ。私自身、ドイツ国籍を取得してまだ日が浅いが、以前から興味本位で使ってみたこともあった。

今年の欧州議会選挙には、ドイツから立候補した三五の政党が、前もって編集部が集めてまとめた質問に答えた。編集部は、二三名の若者(一八歳から二六歳の、ドイツで選挙権を所有する者で、ドイツ中の応募者の中から選ばれる)、ドイツの科学・教育に関する専門家、そして bpb の責任者から成る。

簡単には説明しにくいので、興味がある方は検索を勧める。結果的には、奈々(長女)の選んだ政党はアーント(夫)と私とは異なり、若い人の気持ちや希望が一番反映されるものであった。六月九日(日)に、奈々や賢治(長男)の母校である地元の小学校内で行われた投票自体は、奈々いわく、「行って、Xをして帰るだけで、どうってことなかった」のだそう。(私は病気のため、賢治は演奏準備のため、前もって郵便投票をした。)

一六歳から選挙に参加できることは、若い人たちの考え・要求・責任に対する意識が深まるチャレンジでありチャンスでもあると信じている。

映画鑑賞「親分はイエスさま」を見て

ミッション・バラバによるノンフィクション原作を元に映画化したものです。礼拝後、教会で皆さんと見た時の感想です。

- ・本当に愛されていたら、本気で立ち直れるだろうか。
- ・あんな悪いヤクザ人間が心を入れ替えるくらい神の力、愛を思う。

・韓国女性二人の愛の強さ。
・連れ合いを何年も祈りを持って待つことのできる信仰の強さ。

・十字架行進をしているドキュメンタリーを見ていたの映画が見れて良かった。
・韓国教会の様子、力強い、激しい、熱心な祈り、心から、身体からの賛美が感じられた。
これからも、時にはこのように皆さんと一緒に色々な映画を楽しんでいきたいと思っています。

夏休みに日本を訪ねて

小川オスナー良子

今年の夏、母が住む日野の実家に息子のヨハン(一六歳)と里帰りした。今回は彼の学校の友人(同じく一六歳で身長一九〇センチ)も一緒だった。

日本滞在中は、猛暑の中、京都・奈良と修学旅行コースをまわり、東京にもどってからは、一〇代の子たちが喜びそうな場所を観光した。彼らの目当ては渋谷・原宿・下北沢などで、古着屋やスニーカーを探して店をまわり、とにかくラーメンを食べ、東京の夜景を楽しんでいた。そのうちソーシャルメディアで知り合った夏休みに日本に帰国中の同じ年頃のハーフの子たちと友達になり、彼らと一緒に東京の街を歩き、花火大会や海辺にまで出かけていた。

案内役として若い彼らに付き合う時間も多かったが、一方で滞在中の日曜日には母が通う新宿区の下落合教会の礼拝と一緒に参加して、温かい歓迎を受けた。(この教会には女子留学生寮があり、私が日本に住んでいたときには運営委員として留学生の方たちと交流していた。)また今回、ドイツ在住の日本人の友人で、ヨハンのピアノの伴奏をして下さっている方の父上が日本で洗礼を受けることになり、帰国できない彼女に代わって、彼が住んでいる群馬県まで訪ね、洗礼式に立ち会った。ヨハンたちも一緒に来てくれ、洗礼式では、コンピュータに慣れているヨハン達のおかげで、ドイツにいる彼女ともオンラインで繋がりがながら、洗礼式を共にすることができた。京都では以前ギョータスローで家族ぐるみの交流があり、日本に帰国したドイツ生まれの双子の一人と再会することができ、彼らが去年から大学生になり(一人は京都、一人はアメリカの大学)、教会で洗礼を受けたことを知った。(兄

弟のあいだの会話は今でもドイツ語だそうです。)

インターネットのおかげで、人と繋がるのが容易になり、若い子たちは難なく使いこなしていて、頼もしかった。また、日本で会った人たちも、それぞれが生活している場所での信仰が育まれ、神様を通して人とつながる恵みを感じることもできた。

若い彼らにとって、今回の経験がどのように役に立つのか、色々な刺激を受けたと思うが、ドイツにもどってからの生活の中で消化し、自分のやりたいことを見つけ、今後の活動の中で役立てて欲しいと思う。

◇ 報 告 ◇

◇五月一二日の礼拝は、佐々木牧師がフランクフルト日本福音教会での説教のご奉仕のため、フランクフルトの教会のスーム礼拝に合流しました。

◇六月九日の礼拝は、佐々木牧師がデュッセルドルフ日本福音キリスト教会での説教のご奉仕のため、現地教会に行かれた方々と、ケルンでスカイプ礼拝に合流された方々と二通りに分かれまして。

◇六月一六日、礼拝にて役員就任式を執り行いました。今年の役員は、藤井隼人兄、シュミット亜弥子姉、外間久美子姉(八月まで)、金聖恩姉、そして新しく藤井千恵姉が加わりました。

◇六月三〇日、ボンハップファー教会にて合同礼拝後、教会通りのバザーが開催され、私たちの教会は焼きそば、押しずし、のり巻きを販売しました。売上は、ボンハップファー教会を通して、全てお捧げいたしました。

◇七月から、プリユッセル日本語教会の中学生の兄妹の洗礼準備会をスカイプにて始めました。

◇七月二五日〜二八日まで、ヨーロッパキリスト者の集いに佐々木牧師が参加しました。二八日の主日礼拝は、ズームにて集いの閉会礼拝に合流しました。尚、講演・メッセージなどを「第四一回・Stuttgart サイター」でご覧いただけます。

<https://www.europesudoi.net/%E7%A%A%E7%A9%BC%E9%94%EF%BC%91%E5%9B%9E%stuttgart-%E7%89%B9%E8%A8%AD%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%83%88/>

◇八月四日は、フィンランドから、One Vision Mission Church Finland・加藤琢実牧師を招いて説教の工用をして頂き、礼拝後、フィンランドに関してのお話を伺いました。

◇八月一日、役員・奏楽者として四〇数年ご奉仕くださった外間久美子姉の送別礼拝を行いました。八月一日に日本へ本帰国されました。

◇八月一八日、礼拝後、「親分はイエスさま」の映画鑑賞会を開催しました。

◇ 予 告 ◇

蜜の市のご案内 十一月一日(金・祝日)

午後二時より

会場 ボンハップファー教会(当教会の礼拝場所)
内容 蜜の市 古本

※ 食堂はありませんが、お土産用の日本食を少し予定しています。

※ ご家庭でお使いになつていない品物(衣類を除く)がありましたら、ご協力お願いいたします。詳細は、直接教会にお問合せください。

◇ 編集後記 ◇

新学期が始まりました。私たちの身近なところでは、小学校に入学したお友だち、大学生になって親元から巣立っていったお嬢さんがおられます。其々の新しいスタートに私たちもワクワクします。これからどのような祝福された世界が繰り広げられていくのでしょうか。思うだけで私たちも大いなる恵みが与えられたような思いになりますね・・・。(佐々木良子)

発行：ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
Japanische Evangelische Gemeinde
Köln/Bonn e.V.
＜主日公同礼拝＞
会場：Dietrich Bonhoeffer Kirche
住所：An der Decksteiner Mühle 1 / 50935
Köln (Lindenthal) Germany
電話：0221-430319 (礼拝前後のみ)
時間：毎週日曜日 14:00-15:00
＜牧師＞佐々木良子 (Pfarrerin Ryoko Sasaki)
牧師宅：Breslauer Str.26. 50858 Köln
固定電話：02234-9298792
携帯電話 0151-2910 6278
E-mail r310130s@gmail.com
＜ホームページ＞<http://koelnbonn.jp/>
＜振り込み口座＞
IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38
BIC: PBNKDEFF